

# 年頭所感

社団法人

日本べんとう振興協会 会長

## 安田 定明



皆さん明けましておめでとうございます。希望にあふれた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと非常に厳しい年でした。海外では、北朝鮮の韓国への爆撃やギリシアの財政不安に起因するユーロの急落等も記憶に新しいところです。また世界的なデフレの進行も懸念されます。欧米はあたかも日本のバブル崩壊後の状態に似てきているとも考えられます。昨夏の記録的な猛暑も忘れるわけにはいきません。2010年の言葉として「暑」が選ばれたのも多くの方が納得ではないでしょうか。その影響で野菜が軒並み高騰し、私ども業界もコストアップに悩まされました。

さて私は今年の協会の課題として次の3つを強調したいと思います。

まず一つは公益社団法人の認可の取得です。現在事務局で、当局と折衝をしてもらっていますが何とか年央までに目途をつけて欲しいと願っています。当協会の設立の趣旨の一つがバイイングパワーに抗することであったことにも合致するものです。

二つ目は、食品微生物検査技士の受験資格を大学生や短大生および専門学校の生徒のキャリアアップのためにオープンにしたいということです。昨今の就職難の事態を考えれば、学生がこの資格を得ることによって就職にも有利になるでしょうし食品

会社にも安全・安心の基礎として資格保持者は貢献してくれるものと期待出来ます。

3つ目は、食品残さの問題です。家庭も含めると年間1900万トンと言われ、国家的課題の一つであり、長鮮度商品への取組みの重要性が問われています。

国内4万店舗で飽和しつつあるとも見られているコンビニの売り上げも成長が鈍化しており、私どもの業界の生き残り策を真剣に考えて行かねばならない状況に立ち至っております。価格が高くても消費者の支持を得られる商品の開発こそ苦境を不脱する一助となると確信しています。

最後に、黄綬褒章について一言触れます。約40年前には中食という言葉もなく愚直に私は食品製造に取り組んで来たのですが、業界が市場規模約7兆円となり皆さんの代表として私が受章したものと受け取っております。これからもどうぞよろしくお願い致します。

今年も課題や問題が山積する中でのスタートです。厳しい環境の中で、ピンチをチャンスに変える機会と考えて実り多い1年となりますように共に努力を積み重ねてまいりましょう。

今年も良い年となりますように心からお祈り申し上げますとともに、弊協会に引き続きご支援ご協力を賜りますようお願いを致します。